

病害虫情報(第3号)6月予報

令和8年5月29日
神奈川県農業技術センター

病害虫防除部 TEL 0463-58-0333
ホームページ <https://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002/>

【内容】

- I 6月の主な病害虫の発生予報、防除要否、使用する薬剤例 1
【水稲、カンキツ、ナシ、カキ、ブドウ(大粒種)、キウイフルーツ、チャ、露地トマト、露地キュウリ、ナス、ネギ、スイカ、カボチャ、メロン】
- II 6月の気象予報と病害虫発生予報の根拠 10

- 農薬を使用する際は、必ずラベルの記載事項を確認し、遵守すべき基準を守り、飛散防止に努めましょう。
- 掲載農薬は一般的な場合を想定し、防除効果を優先して選定しています。
- ※ 農薬に関する情報は、令和8年5月28日までの農薬登録情報に基づいて記載しています。

I 6月の主な病害虫の発生予報、防除要否、使用する薬剤例

【水稲】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
ヒメビウンカ (イネ縞葉枯病)	並	○	【育苗箱施薬:ヒメビウンカ、イネミズゾウムシ】 アドマイヤーCR箱粒剤 [は種時(覆土前)～移植当日,1回] 50g/箱 エバーゴルフオルテ箱粒剤 [は種時(覆土前)～移植当日,1回] 50g/箱
イネミズゾウムシ	並	○	
ニカメイチュウ	やや少	○	【育苗箱施薬:ヒメビウンカ、イネミズゾウムシ、ニカメイチュウ】 グランドオンコル粒剤 [移植3日前～移植当日,1回] 50g/箱 プリンス粒剤 [は種時(覆土前)～移植当日,1回] 50g/箱 等 ◆ イネ縞葉枯病(ヒメビウンカ)に関する防除情報を令和8年3月26日に発表している。 ◆ イネ縞葉枯病対策として、ヒメビウンカの防除は必須である。 ◆ ツマグロヨコバイの発生が多い地域では、アドマイヤーCR、グランドオンコル、エバーゴルフオルテを使用する。 ◆ 紋枯病、白葉枯病の発生が懸念されるほ場では、エバーゴルフオルテを使用する。
スクミリンゴガイ	—	△	スクミノン [60日,2回] 1～4kg/10a 等 ◆ 取水口にネットや金網(目合い9mm以下)を設置する。 ◆ 移植後3週間、浅水管理を行う。水深を4cm以下(理想は1cm)にすることで実害がほとんどなくなる。 ◆ 詳細は、以下の防除対策資料を参照すること。 神奈川県スクミリンゴガイ防除対策マニュアル(農業技術センター)

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★ 水田用除草剤や本田粒剤の散布後7日間は落水やかけ流しをしない。

病害虫情報 (令和8年度・第3号・6月) …………… 神奈川県農業技術センター

【カンキツ】 生育: やや早(足柄地区事務所根府川分室: 普通温州)

病虫害名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
黒点病	並	○	(予) ジマンダイセン水和剤 みかんを除くかんきつ: [90日, 4回] 黒点病: 600~800倍 みかん: [30日, 4回] 黒点病: 400~800倍、そうか病: 400倍 (予) ペンコゼブ水和剤 みかんを除くかんきつ: [90日, 4回] 黒点病: 600~800倍 みかん: [30日, 4回] 黒点病: 400~800倍、そうか病: 400倍 ☞ 上記2剤は成分が同じであるため、どちらかを使用する。
そうか病	並	○	(予・治) パレード15フロアブル [7日, 2回] 2,000~3,000倍 等 ◆ 黒点病は散布後に積算降水量が250mmを超えたら、再度散布する。 ◆ 黒点病は、伝染源である樹上枯枝を剪除し、園内に放置しない。
ミカンハダニ	並	○	マシン油乳剤 (97%, 98%) 等
カイガラムシ類	—	○	◆ マシン油乳剤は商品によって希釈倍数・使用時期が異なるので、ラベルの記載に従う。
ミカンサビダニ チャノキイロ アザミウマ	—	○	ハチハチフロアブル [前日, 2回] サビダニ類: 2,000~3,000倍 アザミウマ類: 1,000~2,000倍 コテツフロアブル [前日, 2回] 2,000~6,000倍 等
ミカンナガタムシ	—	△	エクシレルSE [前日, 3回] 5,000倍 アクセルフロアブル [7日, 3回] 1,000~2,000倍 等 ◆ 成虫が羽化する6月中旬に散布する。 ◆ 詳細は令和7年4月16日発表の「病害虫情報 号外 第3号」を参照する

[防除要否] ◎: 追加防除が必要 ○: 通常防除 △: 必要に応じて防除 ×: 防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

【ナシ】 生育: 並(生産技術部果樹花き研究課: 豊水)

病虫害名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
黒星病	並	○	(予) キノドーフロアブル [21日, 9回] 1,000倍 (予・治) アンビルフロアブル [7日, 3回] 1,000~2,000倍 (予・治) ベルクートフロアブル [14日, 5回] 1,500倍 等
アブラムシ類	やや少	○	アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 [前日, 3回] 2,000倍 オリオン水和剤40 [3日, 2回] アブラムシ類、シンクイムシ類: 1,000倍
シンクイムシ類 (発生時期)	(並)	○	コルト顆粒水和剤 [前日, 3回] アブラムシ類: 4,000倍 等
カメムシ類	やや多	○	◆ カメムシ類、シンクイムシ類の発生消長は、ホームページの情報を参考にする。 ◆ シンクイムシ類の第2世代の幼虫を対象とする防除は、第1世代の成虫発生ピークから7~9日後が適期である。
ニセナシサビダニ	並	○	サンマイト水和剤 [21日, 1回] 1,000~1,500倍 等
ハダニ類	やや多	○	ダニサラバフロアブル [前日, 2回] 1,000~2,000倍 等

[防除要否] ◎: 追加防除が必要 ○: 通常防除 △: 必要に応じて防除 ×: 防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報

(令和8年度・第3号・6月) …………… 神奈川県農業技術センター

【カキ】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
落葉病	並	○	(予・治) スコア顆粒水和剤 [前日,3回] 3,000倍 等
うどんこ病	並	○	
コナカイガラムシ類	—	○	ダントツ水溶剤 [7日,3回] 2,000～4,000倍 等
カメムシ類	やや多	△	
カキノヘタムシガ (発生時期)	(並)	○	ダントツ水溶剤 [7日,3回] 2,000～4,000倍 ディアナWDG [前日,2回] 5,000～10,000倍 等 ◆ カキノヘタムシガ第1世代幼虫の防除適期は、富有の開花盛期(開花率80%以上)から10日後である。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

【ブドウ(大粒種)】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
べと病 黒とう病 晩腐病	— 並 —	○	(予・治) ホライズンドライフフロアブル [21日,3回] べと病:2,500～5,000倍 黒とう病、晩腐病:2,500倍 ☞ ホライズンは混合剤。総使用回数に注意する。 (予) ミギワ20フロアブル [前日,3回] 黒とう病、晩腐病: 2,000～4,000倍 (予・治) オンリーワンフロアブル [前日,3回] 黒とう病、晩腐病: 2,000倍 等
チャノキイロ アザミウマ	—	○	アディオン水和剤 [7日,5回] 2,000～4,000倍 アドマイヤー顆粒水和剤 [21日,2回] 5,000～10,000倍 ダントツ水溶剤 [前日,3回] 2,000～4,000倍 等 ◆ 袋がけ後に侵入しないように、止め金をしっかり固定する。
カメムシ類	やや多	△	ダントツ水溶剤 [前日,3回] 2,000～4,000倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報 (令和8年度・第3号・6月) …………… 神奈川県農業技術センター

【キウイフルーツ】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
かいよう病	並	○	(予) コサイド3000 [収穫後～果実肥大期, -] 2,000倍 等 + クレフノン [-, -] 200倍 ◆ 症状が急速に進行する場合は、かいよう病新系統の感染が疑われる。
果実軟腐病	—	○	(予・治) トップジンM水和剤 [前日, 5回] 1,000倍 等
カメムシ類	やや多	○	アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 [前日, 3回] 1,000～2,000倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

【チャ】 生育：並(北相地区事務所研究課:やぶきた)

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
カンザワハダニ	—	○	【二番茶の萌芽～2葉開葉期】 コテツフロアブル [7日, 2回] 2,000倍 アグリメック [7日, 1回] 1,000倍 等
チャノミドリ ヒメヨコバイ	—	○	
チャノキイロ アザミウマ	—	○	
チャトゲ コナジラミ	—	○	

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「摘採*日前まで」を「*日」に省略

病害虫情報

(令和8年度・第3号・6月) …………… 神奈川県農業技術センター

【露地トマト】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント												
疫病	—	○	(予) Zボルドー [発病前～発病初期, —] 400～600倍 (予・治) プロポーズ顆粒水和剤 [前日, 3回] 1,000～1,500倍 ☞ プロポーズは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) ホライズンドライフロアブル [前日, 3回] 1,500～2,500倍 ☞ ホライズンは混合剤。総使用回数に注意する。等 ◆ 疫病の病原菌は、気温20℃前後で活発に活動し始め、降雨が続くと激発しやすい。過繁茂、密植を避け、畑の排水を良くする。マルチなどにより、雨滴の跳ね上がりを防ぐ。												
うどんこ病	—	○	(予・治) ベルクートフロアブル [前日, 3回] 2,000～4,000倍 (予・治) パルミノ [前日, 5回] 2,000倍 (治) サンクリスタル乳剤 [前日, —] 300～600倍 等 ◆ うどんこ病は多発してからでは防除が困難になるため、発病が確認される前から予防的に薬剤散布を行い、発病確認後はすぐに治療剤の散布を行う。												
アブラムシ類	やや少	○	アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 [前日, 2回] コナジラミ類: 2,000～3,000倍												
コナジラミ類			グレーシア乳剤 [前日, 2回] コナジラミ類、アザミウマ類: 2,000倍												
タバココナジラミ	やや多	○	ウララDF [前日, 3回] アブラムシ類: 2,000～4,000倍												
オンシツコナジラミ	並	○	コナジラミ類、ミカンキイロアザミウマ: 2,000倍												
アザミウマ類	やや多	○	ファインセーブフロアブル [前日, 3回] タバココナジラミ類、アザミウマ類: 1,000～2,000倍 サンクリスタル乳剤 [前日, —] アブラムシ類、コナジラミ類: 300倍 等 ◆ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除が重要である。 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>発生するウイルス病</th> <th>媒介する害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CMV等(トマトモザイク病)</td> <td>アブラムシ類</td> </tr> <tr> <td>TYLCV(トマト黄化葉巻病)</td> <td>コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>ToCV(トマト黄化病)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>TSWV(トマト黄化えそ病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> <tr> <td>CSNV(トマト茎えそ病)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ◆ ウイルス病発病株は抜き取り、土中に埋めるなど適切に処理する。	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(トマトモザイク病)	アブラムシ類	TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類	ToCV(トマト黄化病)		TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類	CSNV(トマト茎えそ病)	
発生するウイルス病	媒介する害虫														
CMV等(トマトモザイク病)	アブラムシ類														
TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類														
ToCV(トマト黄化病)															
TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類														
CSNV(トマト茎えそ病)															
オオタバコガ	やや多	○	アファーム乳剤 [前日, 5回] 2,000倍 トルネードエースDF [前日, 2回] 2,000倍 フェニックス顆粒水和剤 [前日, 2回] 2,000～4,000倍 等												

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
 [使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報 (令和8年度・第3号・6月) …… 神奈川県農業技術センター

【露地キュウリ】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
べと病	並	○	(予・治) プロポーズ顆粒水和剤 [前日,3回] べと病:1,000~1,500倍、うどんこ病:1,000倍 ☞ プロポーズは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) ピシロックフロアブル [前日,3回] べと病:1,000倍 (予・治) ショウチノスケフロアブル [前日,2回] うどんこ病:2,000倍 ☞ ショウチノスケは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) パレード20フロアブル [前日,3回] うどんこ病:2,000~4,000倍 (予・治) ベルクートフロアブル [前日,7回] うどんこ病:2,000倍 (治) サンクリスタル乳剤 [前日,-] うどんこ病:300~600倍 等 ◆ 肥料切れや成り込みによる草勢の衰えが発病を助長させるため、適切な施肥、草勢管理に努める。
うどんこ病	並	○	
アブラムシ類	やや少	○	アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 [前日,2回] アブラムシ類、コナジラミ類:2,000~3,000倍、 アザミウマ類:2,000倍 グレーシア乳剤 [前日,2回] コナジラミ類、アザミウマ類:2,000倍 ウララDF [前日,3回] アブラムシ類:2,000~4,000倍、コナジラミ類:2,000倍 アファーム乳剤 [前日,2回] コナジラミ類、アザミウマ類:2,000倍 サンクリスタル乳剤 [前日,-] アブラムシ類、コナジラミ類:300倍 等 ◆ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除が重要である。
コナジラミ類	やや多	○	
タバコ コナジラミ		○	
オンシツ コナジラミ	並	○	
アザミウマ類	並	○	◆ ウイルス病発病株は抜き取り、土中に埋めるなど適切に処理する。
ミナミキイロ アザミウマ ミカンキイロ アザミウマ		○	

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
 [使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報 (令和8年度・第3号・6月) …… 神奈川県農業技術センター

【ナス】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
うどんこ病	—	○	(予) フルピカフロアブル [前日, 4回] 2,000~3,000倍 (予・治) ベルクートフロアブル [前日, 3回] 2,000倍 (治) サンクリスタル乳剤 [前日, -] うどんこ病: 300~600倍 等
灰色かび病	—	○	◆ 発病した果実や葉は、早期に取り除きほ場の外で適切に処理する。
アブラムシ類	やや少	○	アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 [前日, 2回] アブラムシ類: 3,000倍、アザミウマ類: 2,000倍 ファインセーブフロアブル [前日, 3回] アザミウマ類: 1,000~2,000倍
アザミウマ類	並	○	グレーシア乳剤 [前日, 2回] アザミウマ類: 2,000倍 アフーム乳剤 [前日, 2回] アザミウマ類: 2,000倍
ミナミキイロ アザミウマ ミカンキイロ アザミウマ	並	○	サンクリスタル乳剤 [前日, -] アブラムシ類: 300倍 等
オオタバコガ	やや多	○	アフーム乳剤 [前日, 2回] 2,000倍 トルネードエースDF [前日, 2回] 2,000倍 フェニックス顆粒水和剤 [前日, 3回] 2,000~4,000倍 等
ハダニ類	—	○	コロマイト乳剤 [前日, 2回] 1,500倍 サンクリスタル乳剤 [前日, -] 300~600倍 等

[防除要否] ◎: 追加防除が必要 ○: 通常防除 △: 必要に応じて防除 ×: 防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

【ネギ】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
さび病	—	○	(予・治) ベルクート水和剤 [30日, 3回] 2,000倍 (予・治) アミスター20フロアブル [3日, 4回] 2,000倍
黒斑病	—	○	(予・治) ラリー水和剤 [7日, 3回] さび病: 2,000倍 等 ◆ ネギは薬液をはじきやすいため、水溶剤や水和剤には展着剤を加用し、薬液が十分付着するように散布する。
ネギアザミウマ	やや多	○	【生育期: 散布】 アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 [3日, 2回] 2,000倍 グレーシア乳剤 [7日, 2回] 2,000~3,000倍 等 ◆ ネギは薬液をはじきやすいため、水溶剤や水和剤には展着剤を加用し、薬液が十分付着するように散布する。

[防除要否] ◎: 追加防除が必要 ○: 通常防除 △: 必要に応じて防除 ×: 防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報

(令和8年度・第3号・6月) …………… 神奈川県農業技術センター

▼ 三浦半島地区野菜 ▼

【スイカ】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
つる枯病	並	○	(予) ジマンダイセン水和剤 [7日,7回] 400~600倍 (予) ペンコゼブ水和剤 [7日,7回] 400~600倍 ☞ 上記2剤は成分が同じであるため、どちらかを使用する。
炭疽病	並	○	(予・治) ベルクート水和剤 [前日,4回] 1,000倍 (予・治) ロブラール水和剤 [前日,4回] つる枯病:1,000倍 等
うどんこ病	並	○	(予) イオウフロアブル [発病前~発病初期,-] 500倍 (予・治) ベルクート水和剤 [前日,4回] 1,000倍 ☞ 高温時に薬害が発生しやすいので注意する。 等
アブラムシ類	やや多	○	モスピラン顆粒水溶剤 [3日,3回] 2,000~4,000倍 ウララDF [前日,2回] 2,000~4,000倍 モベントフロアブル [前日,3回] 2,000倍 等
アザミウマ類	多	○	モスピラン顆粒水溶剤 [3日,3回] 2,000~4,000倍 グレーシア乳剤 [前日,2回] 2,000倍 モベントフロアブル [前日,3回] 2,000倍 等
ハダニ類	やや多	○	コロマイト乳剤 [7日,2回] 1,000倍 カネマイトフロアブル [前日,1回] 1,000~1,500倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

【カボチャ】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
疫病	—	○	(予) Zボルドー粉剤DL [-,-] 4kg/10a (予) ランマンフロアブル [前日,3回] 2,000倍 (予・治) フェスティバルC水和剤 [3日,3回] 1,000倍 ☞ フェスティバルCは混合剤。総使用回数に注意する。 ◆ 薬剤散布では、地表面に接する茎や果実に薬剤が付着するように散布する。 等
うどんこ病	並	○	(予) イオウフロアブル [発病前~発病初期,-] 500倍 (予・治) ショウチノスケフロアブル [前日,2回] 2,000倍 ☞ ショウチノスケは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) ベルクート水和剤 [7日,4回] 1,000~2,000倍 (予・治) モレスタン水和剤 [前日,3回] 2,000~4,000倍 ☞ 高温時に薬害が発生しやすいので注意する。 等
アブラムシ類	やや多	○	モスピラン顆粒水溶剤 [前日,2回] 2,000~4,000倍 ウララDF [7日,2回] 2,000~4,000倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報 (令和8年度・第3号・6月) …………… 神奈川県農業技術センター

▼ 三浦半島地区野菜 ▼

【メロン】

病虫害名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
つる枯病	並	○	(予) ジマンダイセン水和剤 [7日,5回] 400～600倍 (予) ペンコゼブ水和剤 [7日,5回] 400～600倍 ☞ 上記2剤は成分が同じであるため、どちらかを使用する。 (予・治) ベルクート水和剤 [前日,5回] 1,000倍 (予・治) ロブラール水和剤 [前日,4回] 1,000倍 等 ◆ 株元の古葉を摘除して通風を図る。
べと病	—	○	(予・治) プロポーズ顆粒水和剤 [3日,5回] 1,000倍 ☞ プロポーズは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) リドミルゴールドMZ [7日,3回] 1,000倍 ☞ リドミルゴールドMZは混合剤。総使用回数に注意する。 等
うどんこ病	並	○	(予・治) ショウチノスケフロアブル [前日,2回] 2,000倍 ☞ ショウチノスケは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) ベルクート水和剤 [前日,5回] 1,000倍 (予・治) アミスター20フロアブル [前日,4回] 2,000倍 ☞ 高温時に薬害が発生しやすいので注意する。 等
アブラムシ類	やや多	○	モスピラン顆粒水溶剤 [3日,3回] 8,000倍 ウララDF [前日,2回] 2,000～4,000倍 モベントフロアブル [前日,3回] 2,000倍 等
アザミウマ類	多	○	アフーム乳剤 [前日,2回] 1,000～2,000倍 グレーシア乳剤 [前日,2回] 2,000倍 モベントフロアブル [前日,3回] 2,000倍 等
ハダニ類	やや多	○	コロマイト乳剤 [前日,2回] 1,000倍 カネマイトフロアブル [前日,1回] 1,000～1,500倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報 (令和8年度・第3号・6月) 神奈川県農業技術センター

Ⅱ 6月の気象予報と病害虫発生予報の根拠

(1) 6月の気象予報(気象庁 5月19日発表3か月予報)

〈天 気〉

期間の前半は、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

〈要素別予報〉

	低い(少ない)	平年並み	高い(多い)
気 温	10%	20%	70%
降 水 量	30%	30%	40%
日照時間*	40%	40%	20%

*5月21日発表1か月予報による。

(2) 6月の病害虫発生予報の根拠

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
水稻	ヒメビウンカ (イネ縞葉枯病)	少	並	1) ヒメビウンカ越冬世代の密度は平年並。(±) 2) 予察灯への誘殺は見られず、発生が平年並。(±) 3) ヒメビウンカ越冬世代におけるイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率は、平年よりやや低い。(－) 4) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。 (+)
	イネミズゾウムシ	少	並	1) 予察灯への誘殺数は、平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。 (+)
	ニカメイチュウ	少	やや少	1) 前年9月の調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 予察灯への誘殺は見られず、平年よりやや少ない。(－) 3) フェロモントラップへの誘殺は見られず、平年よりやや少ない。(－) 4) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。 (+)

※ 「発生量」…………… 程度: 甚 > 多 > 中 > 少 > 無 平年比: 多 > やや多 > 並 > やや少 > 少
「予報の根拠」…………… (+): 多発要因 (－): 少発要因

病害虫情報

(令和8年度・第3号・6月) …… 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
カンキツ	黒点病	-	並	1) 県予察ほ(根府川)では、3月の樹上枯枝量が平年よりやや多い。(+) 2) 県予察ほ(根府川)では、春葉発病が平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	そうか病	-	並	1) 昨年10月の巡回調査では、葉での発病が平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	かいよう病 (中晩柑類)	-	並	1) 4月の巡回調査では、越冬病斑の発病が平年並。(±) 2) 県予察ほ(根府川)では、春葉発病が平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	ミカンハダニ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(根府川)では、慣行防除区での発生は平年よりやや少なく(－)、無防除区での発生は平年並(±)。 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
ナシ	黒星病	少	並	1) 巡回調査では、徒長枝での発生が平年並。(±) 2) 巡回調査では、短果枝での発生が平年並。(±) 3) 県予察ほ(上吉沢)では、発生が平年並。(±) 4) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	アブラムシ類	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(－) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、発生が平年より少ない。(－) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	シンクイムシ類 (発生時期)	-	(並)	1) 第1世代成虫の発生ピークは、有効積算温度等によるシミュレーションから、平年並と予測される。
	ニセナシサビダニ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、発生が平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	ハダニ類	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(＋) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、発生が平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)

※「発生量」……………程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」……………(+):多発要因 (－):少発要因
「発生時期」……………早、やや早、並、やや遅、遅

病虫害情報

(令和8年度・第3号・6月) …… 神奈川県農業技術センター

作物名	病虫害名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
カキ	落葉病	—	並	1) 昨年10月の巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(—) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	うどんこ病	—	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(—) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、発生が平年よりやや少ない。(—) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	カキノヘタムシガ(発生時期)	—	(並)	1) 巡回調査では、越冬世代成虫の発生時期は平年並。(±) 2) 生育調査では、カキの開花が平年並。(±)
ブドウ	黒とう病	—	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
キウイフルーツ	かいよう病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(—) 2) 県予察ほ(根府川)では、発生が平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
果樹全般	カメムシ類	—	やや多	1) ミカン花のビーティング調査では、カメムシ類の寄生は平年よりやや多い(+) 2) フェロモントラップへの誘殺数は、南足柄では平年より多く(+)、県予察ほ(根府川)は平年よりやや多く(+)、伊勢原では平年並(±) 3) 予察灯への誘殺数は、県予察ほ(根府川)で平年よりやや多く(+)、山北と県予察ほ(上吉沢)で平年並(±) 4) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)

※「発生量」…………… 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」…………… (+): 多発要因 (—): 少発要因

病害虫情報

(令和8年度・第3号・6月) ・・・ 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
露地トマト	アザミウマ類	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(+) 2) 青色粘着板への誘殺数は、ミカンキイロアザミウマで平年並(±)、ヒラズハナアザミウマで平年よりやや多い(+). 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
露地 キュウリ	べと病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	うどんこ病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	ミナミキイロアザミウマ ミカンキイロアザミウマ	少 少	並 並	1) 巡回調査では、ミナミキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマともに発生が平年並。(±) 2) 青色粘着板への誘殺数は、ミナミキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマともに発生が平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)

※「発生量」……………程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」……………(+):多発要因 (－):少発要因

病虫害情報

(令和8年度・第3号・6月) …… 神奈川県農業技術センター

作物名	病虫害名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
ナス	ミナミキイロアザミウマ ミカンキイロアザミウマ	— —	並 並	1) 露地キュウリの巡回調査では、ミナミキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマともに発生が平年並。(±) 2) 青色粘着板への誘殺数は、ミナミキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマともに発生が平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
露地トマト 露地キュウリ ナス	アブラムシ類	—	やや少	1) 巡回調査では、トマトでは発生が平年よりやや少なく(－)、キュウリでは発生が平年並(±)。 2) 県予察ほ(上吉沢)の黄色水盤への飛来量は、平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
	タバココナジラミ	—	やや多	1) 巡回調査では、トマトでは発生が平年よりやや多く(+)、キュウリでは発生が平年よりやや少ない(－)。 2) 施設の巡回調査では、トマトでは発生が平年並(±)、キュウリでは発生が平年より多い(+) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
	オンシツコナジラミ	—	並	1) 巡回調査では、トマト、キュウリともに発生が平年よりやや少ない(－)。 2) 施設の巡回調査では、トマトでは発生が平年よりやや少なく(－)、キュウリでは発生が平年よりやや多い(+) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
ネギ	ネギアザミウマ	中	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 青色粘着板への誘殺数は、平年よりやや多い。(+) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
露地野菜 全般	オオタバコガ	—	やや多	1) フェロモントラップへの誘殺数は、横浜、伊勢原では平年より多い。(+) 2) 県予察ほ(上吉沢)のフェロモントラップへの誘殺数は、平年よりやや多い。(+) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)

※「発生量」…………… 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」…………… (+): 多発要因 (－): 少発要因

病害虫情報 (令和8年度・第3号・6月) 神奈川県農業技術センター

三浦半島地区野菜

病害虫名	作物名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
つる枯病	(スイカ)	少	並	1) 巡回調査ではスイカ、メロンで発生が平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	(メロン)	少	並	
炭疽病	(スイカ)	少	並	1) 巡回調査では発生が平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
うどんこ病	(スイカ)	少	並	1) 巡回調査では、メロンで発生が平年並(±)、スイカ、カボチャで発生が平年よりやや少ない(-)。 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	(カボチャ)	少	並	
	(メロン)	少	並	
アブラムシ類	(スイカ)	少	やや多	1) 巡回調査では、スイカで発生が平年よりやや少なく(-)、カボチャで発生が平年並(±)、メロンで発生がやや多い(+) 2) 県予察ほ(三浦)の黄色水盤への飛来量は、平年より多い。(+) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
	(カボチャ)	少	やや多	
	(メロン)	少	やや多	
アザミウマ類	(スイカ)	少	多	1) 巡回調査では、スイカ、メロンともに発生が平年より多い。(+) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
	(メロン)	中	多	
ハダニ類	(スイカ)	少	やや多	1) 巡回調査では、スイカで発生が平年よりやや多く(+)、メロンで発生が平年並(±)。 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
	(メロン)	少	やや多	
オオタバコガ		—	並	1) フェロモントラップへの誘殺数は平年並。(±) 2) 県予察ほ(三浦)のフェロモントラップへの誘殺数は、平年よりやや少ない。(-) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)

※「発生量」……………程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」……………(+):多発要因 (-):少発要因